



# 食といのちを届ける

## 農民連と大阪新婦人の産直交流会。

### 大阪府内172箇所まで食べて、学んで、

### 日本の農業と食・暮らしを守る。

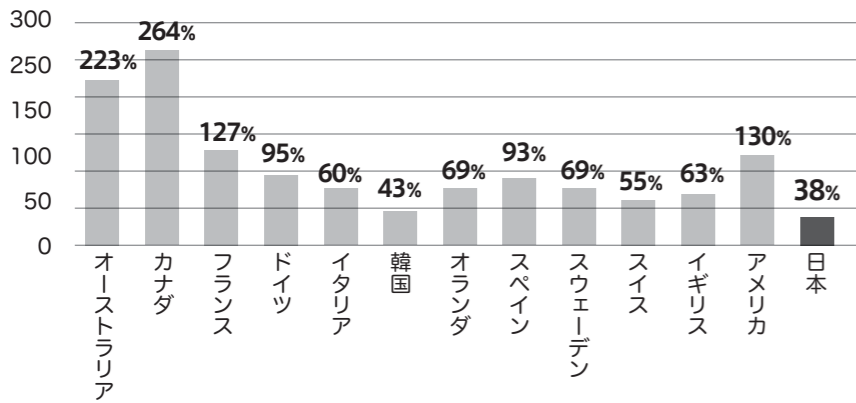


六月五日〜九日、大阪新婦人産直交流会が行われ、福島県からは二十四名が参加し、一七二箇所の会場で食、農業、暮らし、福島原発事故などについて交流会が開催されました。

### 持続可能な暮らし

今年のテーマは「持続可能な農業と食、暮らしを守る」、「お米を中心とした一汁一菜」。日本は食糧を輸入しながら捨てる国になっています。本来食べられる「食品ロス」は約八〇〇万tともいわれ、日本国内の米生産量に匹敵する食料を廃棄しています。日本の食糧自給率は先進国中最下位の三十八%です。現在の世界人口は約七〇億人、二〇五〇年には九〇億人に達すると予測されています。日本が世界の食糧を買い漁り、奪うことは許されません。農業生産に適した日本で食糧自給率を高めることは、世界の飢餓と貧困対策にも不可欠であり持続可能な暮らしの第一歩です。

各国の食料自給率（カロリーベース）①



### 「自分のことばで伝えました」

二十数年前、冷害の翌年から農民連が米を届けたことから絆が生まれ、お互いが支えられてきた歴史を感じました。現在の福島の様子が知りたい、食べる量が減った、保存方法や価格、若い人にどうやって産直を伝えていくかなど、共通の悩みが出されました。ピンチヒッターで初めての大阪で不安もありましたが、農民連会員の方、新婦人本部の方々に支えられながら無事交流会を終えることができました。減農業で安全・安心な農産物を作る苦労と震災後の状況を私なりの言葉で伝えました。福島の米は美味しい！の声に励まされました。

東北農民連 富田和子さん

### 「福島に対する気持ちが熱い」

はじめての参加で緊張しましたが、新婦人の皆さんに温かく迎えてもらいました。私の話を聞いて、意見や感想を話してくれ、福島に対する気持ちが熱いと感じました。

安達地方農民連 佐藤幸治さん

### 「応援してくれる仲間に会えた」

どの班会に行っても福島の米はおいしいと言っていた。新婦人会員の皆さんは福島の農業に関心を持ち、応援してくれる仲間だと思います。これからの米の手入れや管理を手抜きせず、努力してよい米を作ろうと意欲がわいてきました。

須賀川農民連 近内美江子さん

### 種子法廃止

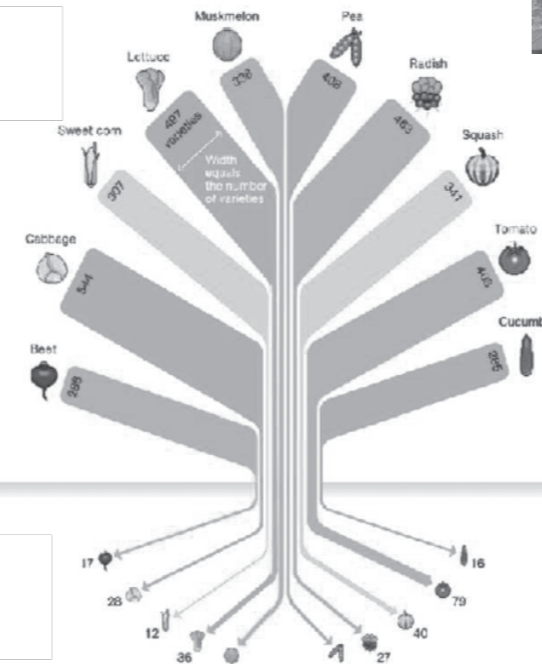
多様性が命の補償に

今年の三月末に主要農産物種子法が多くの農家、市民の反対を無視して廃止されました。民間企業の種子独占を目的とし、規制改革

### 農家と親戚になろう

国内の水稻品種は圧倒的に減ってしまふことが予想されます。野菜種子の多くはすでに民間企業が生産していますが、スイートコーンは一九〇三年に三〇七品種あったものが、一九八三年にはたった十二品種に減っています。過去にはアイルランドで一八四五年から一八四九年、ジャガイモが菌病でほぼ全滅、国民の二割が餓死、二割以上が移民して、人口は半減したといわれています。品種の減少は多様性の喪失は、命の補償を危うくします。

日本の販売農家戸数は毎年六万戸ずつ減少し、二〇一七年で二二〇万戸です。「誰が食料を作り続けるのか、いつまでも海外から食糧を輸入できる日々が続くと考えるのは幻想です。全体交流会で「農家・農民連と親戚になろうと安心してお米を食べられるようにしよう」という発言がありました。大冷害の翌年、一九九四年から始まった米産直は今年で二十五年。長い運動と大震災を乗り越えて紡がれた信頼は、すでに親戚の域へ。今年も親戚のために米作りを頑張ろうと意欲が湧いてきます。



## 農民連フラッシュ flash

### 持続可能な農業を目指して

福島農民連産直農協第17回通常総代会が6月16日福島県農業総合センターで開かれました。TPP11、種子法廃止、戸別所得補償廃止など農業潰しの安倍農政だが、小規模・家族農業が今世界の流れになっていることに確信を持ち、多様で持続可能な農業、原発再稼働許さない取り組みと、農村の特性を生かした再生可能エネルギーの推進を目指すことを確認しました。



### 被害者切捨ての賠償案に反対

6月27日にJ A夢みなみを訪問し、来年から予定されている農業損害賠償案について意見交換をしました。農民連は、加害者である東電が被害者切捨てにつながる一方的な賠償案作成を許さないために農協と一緒に頑張ろうと提案しました。賠償案には意見の相違はあったものの、TPP11問題、種子法廃止、農協解体などで連帯できると話し合いがされました。



NOTE 青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介

### 若い農業者のつぶやきのーと せいねんぶ農人

6月下旬、特別栽培米の圃場確認を兼ねた田まわり会を実施。会津農民連の青年部部員も今年から本格的に特別栽培に挑んでいる。今年春先から雨が少なく、稲の生育が遅い。「米は水でとる」程よい雨が望まれる。

by さと

